

中学校区におけるめざす子ども像 将来をみすえ、自ら学習できる子				堺市立	福田小学校
				校長	清野 寛之

令和6年度 重点目標 重点目標を「主体的に学び続ける子どもの育成」サブテーマ「～主体的に学びだす学習スタイルの探究～」とし、その実現を図るため、個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実とともに、探求的な学びを追求する。 学校教育目標である「自らを大切にするとともに、周りの人々も大切にできる福田っ子を育成する」ことを教職員が常に意識し、人権尊重の精神に立脚した教育活動の展開と、組織的な生徒指導体制の構築を促進する。 東中校区における育てたい18歳の成人像を泉ヶ丘東中学校・福田小学校・東陶器小学校・西陶器小学校で共有し、幼小中接続事業を推進する。そのため公立私立を問わずこども園・幼稚園・保育園等との日常的な交流もすすめる。					
---	--	--	--	--	--

「確かな学びの現状」 ・国語及び算数の知識・技能については概ね目標値を上回っており、全授業者が堺版授業スタンダードを基本としながら、基礎・基本の確実な定着に向けた丁寧な取り組みが功を奏していると考えている。しかし家庭での読書や自主学習ノートを活用した主体的な学びに課題があり、本年度も引き続き「子ども自ら学びだす学習スタイルの探究」をサブテーマとして研修を行いたい。その際、全市的な授業改善の取り組みとして示された「学びのコンパス」に関する研修を外部講師や指導主事を招聘し行い、令和7年度より実践できる環境を整えたい。 ・本校児童の課題として「学びに向かう力」に弱さがあると考えている。その課題克服のために堺市立の小学校で提唱されている「7つの約束」の更なる啓発を行い、保護者・地域の協力を得ながら児童が安心して学びに向かうことができる環境整備を促進していきたい。			豊かな心・健やかな体の現状 ・昨年度より本校学校教育目標に「自らを大切にし、周りの人々も大切にできる福田っ子の育成」掲げている。自らを大切にすることは「自分を甘やかすこと」ではなく、高度に複雑化しつつある現代の社会を、生き抜くことができる力の基盤を学校で獲得することであり、「周りの人々も大切にできる福田っ子」とは他者を尊重し、協調・協働することのできる人になることを意味している。「特別の教科道德」を要としながら、総合の時間や特別活動の時間を活用しながら「豊かな心」を育てていきたい。 ・本校児童の体力面での課題として「筋力」なかなか「握力」の弱さがあげられるので、体育の授業に於いて鉄棒を活用するなどして改善していきたい。また、「50m走」「シャトルラン」「ソフトボール投げ」の結果に向上が見られ、外遊びを奨励していることが好影響を与えていると考えている。さらに本校独自の取り組みとして、関西大学相模部と連携しながら「相模チャレンジプログラム」を実施することで、全体的な体力の向上をはかっていくつもりである。		
--	--	--	--	--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	主担	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)		
									自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	基礎・基本の定着	読む・書く・計算する力を継続的に育成する。	朝読書（水）や図書室活動、並行読書、家庭読書等の取り組みで読書量を増やす。	「毎日読書30分以上」50％以上 「家で週3日以上読書する」55％以上	学校アンケート	年度末	加藤 ○	100冊チャレンジ、週末の読書の宿題、読書ビンゴ、図書委員会による低学年への読み聞かせ、図書だよりの発行などを行っている。	「毎日読書30分以上」42％ 「家で週3日以上読書する」47％と目標値を下回ったが55％が「読書が好きだ」と答えた。	・「毎日読書をしない」「家で週3日以上読書をしない」が半数以上を占めるが、この時代、スマホが普及し、YouTubeやTikTokなどが子どもたちの娯楽の主流になっている。そのような中では致し方ないよう思う。福田小だけの問題ではないのではない。	
			読書活動や自主学習、セット宿題等,家庭学習の充実で学習習慣の定着を図る。 ★自主学習ノートの活用	「毎日宿題をする」が90％以上 自主学習ノート80％以上	学校アンケート	年度末	青塚 ○	読書や自主学習、セット宿題など、家庭学習を設定し、学習習慣の定着を図っている。	「毎日宿題をする」が85％、「自主学習ノートをつかっている」が75％とどちらも目標値を下回った。学習習慣の定着にむけた取り組みを考えていきたい。	○	
			学校での朝学習（火・木・金）で漢字や計算などを繰り返し行い基礎学力の向上を行う。	定着テストの知・技の正答率が国語80％以上算数80％以上	学力テスト すくすくテスト	年度末	青塚 ○	学校での朝学習に取り組み、漢字や計算などを繰り返し行い、基礎学力の定着に取り組んでいる。	国語83％算数82％と目標値を上回った。引き続き基礎学力の向上にむけて取り組んでいく。	○	
	授業改善・指導力の向上	思考力・判断力・表現力を育成する。	●教員全員が公開授業を行い、積極的に参観することで、授業力改善に努める。	研究授業・公開授業・授業参観	実践報告	年度末	教師 △	今年度は欠員が多く、授業のやりくりがやっとの状態。また、公開授業を計画してくれたも、見に行く人がいないという人手不足に陥っていた。研究授業は計画的に行っている。	研究授業では積極的な意見交換を行った。特に3学期の授業では2名の指導主事が参観され、それぞれの視点からのアドバイスをいただき、有意義なものとなった。授業参観も計画通り行われている。ただし、公開授業は、3学期に入り積極的に行っていただいた先生方もいたが、全員実施には至らなかった。	○	
			自分の考えを書いたり、伝えたりする場面を多く取り入れ、学習過程がわかるノートづくりに取り組む。	アンケート項目「授業ではノートに自分の考えを書く活動がある」で肯定評価80％以上	アンケート	年度末	小山 ○	授業で、自分の考えを書いたり、伝えたりする場面が多くなり、学習過程がわかるノートづくりに取り組んでいる。	本年度は81.4％と目標を達成することができた。しかし、昨年度の青○定率84％に対して少し下がってしまった。学校全体として引き続き意識して取り組んでいきたい。	○	
			堺版授業スタンダードに基づき、子どもがよく考え、わかる授業を展開する。	学校の単元テストの思・判・表の正答率が国語73％以上算数73％以上	単元テスト 学力テスト すくすくテスト	年度末	小山 ○	堺版授業スタンダードに基づき、子どもがよく考え、わかる授業を意識している。	国語の思・判・表は83％と目標値を大きく上回った。また、算数の思・判・表は72％と目標値を1ポイントしたまわった。まだまだ伸びしろがあるので、子どもたちの思・判・表を上げていくために校内研修をさらに充実していきたい。	○	
			力がないことや、詳しく知りたいことがあったときに、自分で調べ方を考え、工夫することはできていますか。 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。 学習したことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると 생각합니다。 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。 総合的な学習の時間や自主学習などでは、自分のきょう味・関心から学習の中上るを自分で考えていますか。	・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動に取り組んでいる。(学テ43番) ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。(学テ45番) ・総合的な学習の時間や自主学習などでは、自分のきょう味・関心から学習の内ようを自分で考えている。(CBT22番) ・学習したことを普段の生活で使う場面がないか考えている。(CBT25番)	CBT・学テ及び学校アンケート	年度末	小山 ○	各教科の授業や総合的な学習の時間を通して子どもたちが主体的に活動できるように、アンケートにあるような項目を意識しながら、授業づくりに取り組んでいる。	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりする活動に取り組めた。83％→78％ ・生活や総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。75％→68％ ・総合的な学習の時間や自主学習などでは、自分のきょう味・関心から学習の内ようを自分で考えている。79％→76％ ・学習したことを普段の生活で使う場面がないか考えている。75％→74％ どのアンケート項目も少し前年度を下回ってしまった。次年度も総合的な学習の時間の研究を進め、学びに向かう力を高めしていきたい。	目標を下回っているのでやむを得ず△と評価したが、これには先生の人員不足が大きく影響しているのではないかと先生方の負担が大きいのでは？と心配である。	
	豊かな心・健やかな体	心の教育	教育活動全体を通じ人権教育を推進するとともに、自他の尊重と自尊感情を高める。	自尊感情や規範意識を醸成し、児童が安心できる学びの場をつくる。	あのねアンケートを用いていじめの早期発見に努める。	実践報告	毎学期	井野 ○	あのねアンケートを学期に1回（2学期は2回）実施し、必要に応じて児童との面談も行った。	毎学期、あのねアンケートと個別面談を実施しいじめの早期発見と迅速な対応に努めた。	○
				あいさつ・もくもくききびき清掃の徹底	生活目標よりかえりアンケート各項目で肯定評価80％以上	アンケート	年度末	井野 ○	毎月始めに朝会で生活目標を示し、月末にふり返りを実施。児童のふり返りを生徒指導過程にまとめて発行し、児童・保護者への意識づけを行った。	毎月の生活目標のふり返りにおいては肯定評価が大半だったものの、いききアンケートの結果では、挨拶76.3％もくもくきき80.1％という結果となった。より一層挨拶運動に力を入れていきたい。	△
				教科書や「未来をひらく」を効果的・計画的に活用する中で道德教育を充実させ、児童の道德的判断力の発達を図る。	「人の気持ちをわかる人間になりたいと思う」の肯定評価90％以上	学校アンケート	年度末	井上 ○	年間計画に基づき、児童の道德的判斷力を養うことを意識した授業づくりに取り組んでいる。	アンケート結果は88.5％となり、目標に近い値となったが、目標を超えることはできなかった。今後も、道德判斷力を高める授業を行ってきたい。	○
人権教育・特別支援教育の充実を図り、やさしく思いやりのある子を育てる。				人権にかかわる項目で肯定評価85％以上	アンケート	年度末	山口 ○	6月の「平和学習」、11月に「にんげん学習交流会」「日曜参観」では全学年道德の授業で、保護者に啓発を行った。	アンケート結果は、肯定的な評価が85％と目標を達成した。しかし、「自分には良いところがある」では76.1％と80％を切っていたため、今後、自尊感情を高められるような活動に取り組むたい。	○	
体育大会、体育授業、体育大会でのダンス（表現運動）、福田体力アップチャレンジ（業間にすもう、かけあし、なわとび等に取り組む）を行い、年間を通じて体力づくりに取り組む。体力低下が懸念されるので、一人ひとりの児童が外遊びをする機会を設けるよう、学級で取り組みを行う。教員の体育の授業で体づくり運動を取り入れ、多様な遊びや運動を充実させ、児童一人ひとりの運動への意欲を高め、体力づくりの習慣化を図る。(体育ノート・体育カードの活用)				アンケート項目「運動をすることや、体育の授業は好きですか。」で肯定評価82％以上 体育ノートや体育カードによる児童の情意面、思考面の変容	アンケート 実践報告	年度末	植田 ○	6月に体育大会を実施し、全学年、体育技能を表現することができた。10月に相模大会を実施した。11月にはなわとびチャレンジを実施した。それぞれで体育の技能を高める活動を行うことができた。	アンケート項目「運動をすることや、体育の授業は好きですか。」で肯定評価86％達成することができた。体育ノートやカードを通して子どもたちの体育の思考を読み取り、意欲向上につなげることができた。	○	
体力向上		心身ともに健全な子どもの育成 (生活に根ざす体力づくり・体力向上)								寒い日も元気に外で遊んでいるのを、学校の周りを通るときにも見かける。とても良いことだと思う。	
地域協働	こ期待できる信学校に	学校情報を積極的に発信し、地域の学校として地域の力を借りながら教育活動を進める。	学校の様子を積極的に情報を発信（ホームページ・校報・学年通信など）する。	「学校は地域に情報発信を行っている」で肯定評価90％以上	アンケート	年度末	青塚 ○	行事・授業風景などをホームページで毎日発信している。	肯定的評価が86％と目標値は下回ったが、今後も引き続き情報発信を行っていく。	○	
			児童と地域とのつながりの場をつくり、地域との連携を図る。	学校が保護者・地域との連携をとるための活動	実践報告	年度末	疋田 ○	校区文化祭や校区美化活動などへの参加をしている。	「学校は保護者・地域との連携が図れている」の項目で肯定評価が75％で90％以上を上回ることはできなかった。しかし「餅つき大会」「校区文化祭」など、イベントに参加し、地域の力々と交流することができた。	○	
			★幼小接続「東中校区幼小接続事業」★小中連携の推進	幼小中の取り組み	実践報告	年度末	中村 ○	幼小中合同で夏期研修を行うことができた。その他にも保育見学会などにも取り組んだ。	幼小中の学校園を繋げることができた。今後教師だけでなく地域や保護者の声も取り入れて東中校区全ての子どもを包んでいきたい。	○	

校長より（年度末） 本年度も昨年に引き続き生活科・総合的な学習の時間を研修のメインに据え、指導主事の指導・助言を受けながら研修をすすめてきました。子どもが主体的に学ぶために教員はどのようにサポートするのか、さらに子どもの学びを探求的な学びのサイクルに導くためのポイントなど、これから本市がめざそうとする方向（学びのコンパス）を教員全員で共有できたことに大きな意義を感じています。社会の急速なICT化や一人一台のタブレット端末の利活用、さらには生成AIを教育現場で活用しようとするなどの新しいトレンドが、従来の教育を大きく変えることが予測されます。本校はその変化に対応し、主体的に生きていける力の育成にチャレンジしたいと思います。ただし、「自分を大切にし、自分の周りの人も大切にできる福田っ子の育成」をめざすことは、学校教育目標として高く掲げ続けて参ります。皆様のご協力、ご支援を賜りますようお願いいたします。				学校関係者評価者から(年度末) 一番の思いは「人員不足」！そこからいろんなところにひずみが来てしまう。学校に来て子どもたちを見ると、のびのびと楽しそうに授業に取り組んでいる。このような姿があるのは、人員不足の中でも先生方が頑張ってくださっているからである。欠員が出ることがないよう、先生不足の解消を強く願う。 不登校の子が増える中、あったカルームや支援コーディネーターの存在は大きい。「学校の中で何とか」と考えず、どうぞ、民生委員や児童委員を活用してください。「学びのコンパス」を進めていくには少人数でのより丁寧な一人一人の見取りが必要だと感じました。	
---	--	--	--	--	--